

Comments and Discussions

Hitoshi HIRAKAWA (平川 均) *

本論文は、2011年3月11日に発生した東日本大震災によって大打撃を受けた日本の自動車産業の生産方式に関する考察である。日本の自動車産業の国際競争力は、トヨタ自動車の生産方式に代表されてきた。それは「かんぱん方式」、「ジャストインタイム」、あるいは「リーン生産方式」などと呼ばれるが、大震災はこの生産方式の弱点が露呈したと一般に捉えられている。

だが、本論文で著者はそれが明らかに誤りであり、危機からの復旧が速やかに行われたのは、逆にジャストインタイム方式であったが故であると主張している。

著者は、危機後の復旧でどのようにジャストインタイム方式が機能したか確認し、同時に危機に対して一致団結する日本的文化がさらにそれを支えたという。だが、そうであったとしても日本の製造業の課題は、ジャストインタイム方式の一層の深化によって対応できるという訳ではない。アジア大に広がった国際分業構造は円高や、日本経済を取り巻くその他の構造変化に直面し、新たな対応が求められている。東アジアの国際分業構造の新たな構築に課題が突きつけられている。本稿は、その課題にどう対処するか、その方向を示そうとしている。自動車産業の直面する課題を詳細に論じる好論文である。

* Professor, Graduate School of Economics, Nagoya University.

名古屋大学大学院経済学研究科教授